対話でつくる村づくり

各界から活発な意見・要望

新春座談会

新しい岩室村の建設に意欲を燃やす、新春座談会が去る一月五日静閑荘で開催された。村三役、村内各界代表、役場課長ら約百名が参集し、村長の年頭のあいさつにはじまった新春座談会は、各界の活発な質問、意見要望を交えて盛大裡に終了した。

まず「新年のあいさつ」と題して村長は、要旨次のように語った。

①一九七一年は激動の年であった。わが岩室村もこれらの国際国内情勢の現実をしっかり認識し、これに対応した村政を考えなければならない。

②上越新幹線、高速自動道の開通、シーサイドラインの本年度着工などの影響により、岩室村も大きく変ぼうすることが予想される。

③都会の人に緑と憩の場を提供する自然休養村の建設を、勇断をもって実施したい。またこれと関連して、第二次農業構造改善を推進して営農改革を図りたい。

④村行政の基調は、農業を軸とした観光商工循環政策であると提唱してきたが、これが自然休養村の実現によって達せられると思う。

⑤採算の合う農業として、農業の企業化を推進したい。

⑥道路は文明のバロメーターである。道路改良に全力を注ぎたい。

⑦来る二十三日の選挙に出馬することを決意した。

⑧新しい村づくりの為に全村民の一致協力を望む。

次に山本芳太郎議会議長の「海、山、平野に恵まれた天然資源を生かし、豊かな村づくりをしよう」というあいさつに引き続き、〝47年度村の展望〟と題して座談会に入った。

渡辺洞雲氏　民主々義が本当に理解されているかどうか疑問である。自由と平等の本当の意味を根底から理解して欲しい。

伊藤喜一氏　自然休養村と二次農業構造改善の結びつきは、どうなっているのか。村民に対しPRが必要である。

村長　緑と憩の場を、都会の人達に与えるのが目的である。一五〇〇*ha*の山林周辺に、いろいろな施設をつくる。休養村と関連した二次構造改善は、これら山林周辺に近い栄、橋本部落の協力を考えている。村の農業行政にマッチした最低の改善計画を樹てればよいものである。

本間八十太郎氏　〝緑を育てよう〟が実行目標となっているが、村の木はどのように選定するのか。幼児教育の必要性から、幼稚園を作ってほしい。

企画課長　村民からの応募を待っている。適した木があったら、十五日までに役場へ知らせていただきたい。

村長　あずま保育所の定員不足と老朽化で困っている。幼稚園は運営の面で多くの問題がある。将来は保育所の統合と幼稚園の設置を考えたい。

三部正彦氏　間瀬白岩附近に〈バシクロモン〉という貴重な植物がある。シーサイドライン建設の際に死枯させないよう厳重な指導監督を望む。

村長　自然を破壊しないよう、充分な注意が払われている、村の文化財審議委員から調査を願うと共に、県側にも申入れる。

大越安之丞氏　四十五年三月議会で、減反問題について反対決議案を出したが、葬り去られてしまった。終戦後二十年経てもまだ民主主義が守られていない。

村長　過去四年間、多数の村民の声は聞いてきたと信じている。村民九〇二四人が住んでいるので、小さなひずみが出ることも事実だが、それを出来るだけなくするように努力してきた。

高島一郎氏　多年の希望であった電話の自動化について、村民の御協力により、四十八年上期に実現される予定だ。現在、あずま保育所脇に交換所が建設中である。

田中芳男氏　常備消防設置に感謝する。

村長　本村は、三条・燕広域圏との関連で、南部消防事務組合に加入し、四月一日から発足する。

瀬賀進氏　かつての学校は学級数、生徒数も多かった。人口が村に定着するような施策を構じて欲しい。

小島ヨキ氏　交通事故防止の徹底を図ってもらいたい。又、留守家庭の子供に間違いが起きないような教育、指導を望む。

移動採血車

〝ゆうあい号〟が来る

あなたの健康な血液で

尊い生命を救いましょう

二月二十二日　岩室公会堂

二月二十三日　岩室村役場

どの会場も

午前九時三十分から午後三時までです。

家族ぐるみ、部落ぐるみ、

村ぐるみの〈愛の献血〉を

おまちします。

休日の救急病院

6日(第一)	吉田町	吉田病院
11日(祭日)	吉田町	伊藤病院
13日(第二)	巻　町	巻病院
20日(第三)	吉田町	吉田病院
27日(第四)	巻　町	巻病院

農耕用耕耘機の『軽油免税証』の交付申請

〈交付申請〉

二月八日～十日

午前九時～四時

場所　岩室村役場

申請手続きに必要なもの

①免税軽油使用者証

②機械の名称、エンジン番号、馬力数（カタログか検査証でわかる）

③機械の所有証明（役場の証明または販売店の売渡証明書）

④耕作面積証明（税務課）

⑤印かん（共同は全員）

⑥住所（番地も必要）

⑦申請用紙（会場にある、申請者が記入する）

〈免税証の交付〉

三月十三日

午前九時～午後四時

場所　岩室村役場

農業委員会委員選挙

投票日　2月20日

岩室村農業委員会委員の任期満了に伴う一般選挙は二月二十日執行することに選挙管理委員会で決定しました。

この選挙は公職選挙法に準じて行なわれ違反行為は厳重に取り締られます。

委員の定数は十二月議会で定数条例一部改正により十名となりました。これは以前より二名減となります

立候補届出は二月十三日の告示と同時に受付けが開始され二月十六日まで受付けられます。

選挙権を行使できる者

。昭和四十六年三月三十一日確定した「農業委員会委員選挙人名簿」に登載されている者で選挙当日岩室村に住所がある者

立候補できる者

。耕作面積が一〇アール以上耕作する者及び同居の親族で年間を通じておよそ六十日以上農業に従事する二十才以上の者

尚立候補される方、選挙運動される方のために二月五日、午前九時より役場にて説明会を開催いたします。

昭和47年度実行目標

「緑を育てよう」の書初めの入賞者決る

昭和四十七年度村の実行目標「緑を育てよう」を村民の皆さんから認識し実行していただきたい趣旨から小・中学生から書初をしてもらいました。

指導に当られた先生方の努力が実を結び力作が沢山ありまして、優劣をつけるに困難でしたが、次の児童、生徒百十三名が入賞いたしました。

この作品は主たる村の事業所等に展示してもらってあります。

岩室小学校

四年　大月泰介

山上美佐子

和納小学校

五年

岩渕珠美　渡辺美佐子

四年　有坂ミミ子

早川文子　志田博美

竹内登代美　藤田誠

木部優美子　後藤利彦

山県弥生　渡辺敏子

竹内喜美子　森口修喜

渡辺昌文　寺沢恵美子

長谷川信子　小林純子

吉谷久美子　鷲沢浩美

五年

中沢直子　西村渉

中原徳子　本間美和子

田中清久

大森利美

堀越喜与志

田島和子

石田昌美

石原貴美子

団内美奈子

竹内則子

岡崎孝子

鈴木孝子

若杉裕子

棚橋里子

和田久美江

大治一美

三年

石崎厚子

高島朱実

藤本間裕春美

藤辺伸子

渡辺ヱリ子

波辺和子

渡辺貞子

玉橋良子

藤田典子

藤原さい子

団原正子

浅川枝

本間久美子

竹内礼子

田中明

山崎悦子

田中道子

杉田夢路

幸田美代子

斎藤清子

広沢俊夫

石原春美

添田

幸田

小林

西村

多裕美

本田徹

伊藤憲治

丸山隆

秋山洋子

大越寿美枝

間瀬小学校

四年

渡辺奈々子　山川摩由美

阿部朋子　阿部清隆

阿部富美子　小百合

伊藤隆　本間一美

本間朝幸　玉橋春仁

松山貴子　荒川弘之

遠藤厚子　阿部覚

阿部久枝　本間功

大月圭介　風間信人

藤田昌宏

岩室中学校

一年

後藤久美子　堀沢勢子

本間綾子　阿部さとみ

本間均　本間文子

二年

後藤田典子　高島実

波辺和子　石崎厚子

渡辺貞子　大治美

玉橋良子　和田江

渡辺ヱリ子　山本一美

藤辺裕子　関根義雄

藤本春美　小林嘉久次

高島朱実　後藤典子

石崎厚子　星野晴美

大治一美　阿部三枝子

和田江　山県信幸

山本一美　阿部美雪

関根義雄　山川千代子

小林嘉久次　後藤加代子

後藤典子　藤田厚子

星野晴美　鷲沢みゆき

阿部三枝子　渡辺美智子

山県信幸　山県八千代

阿部美雪　山本一美

山川千代子　斎藤清子

後藤加代子　広沢俊夫

藤田厚子　石原春美

鷲沢みゆき　添田

渡辺美智子　幸田美代子

山県八千代　杉田夢路

山本一美　田中道子

斎藤清子　山崎悦子

広沢俊夫　田中明

石原春美　竹内礼子

添田　本間久美子

幸田美代子　岡崎則子

杉田夢路　若杉裕子

田中道子　棚橋里子

山崎悦子　和田久美江

田中明　大治一美

竹内礼子　三年

本間久美子　石崎厚子

岡崎則子　高島朱実

若杉裕子　藤本春美

棚橋里子　藤辺伸子

和田久美江　渡辺ヱリ子

大治一美　藤辺裕子

三年　藤本春美

石崎厚子　渡辺和子

高島朱実　渡辺貞子

藤本春美　玉橋良子

藤辺伸子　藤田典子

渡辺ヱリ子　藤原さい子

渡辺和子　団原正子

渡辺貞子　浅川枝

玉橋良子　本間久美子

藤田典子　竹内礼子

藤原さい子　田中明

団原正子　山崎悦子

浅川枝　田中道子

本間久美子　杉田夢路

竹内礼子　幸田美代子

田中明　斎藤清子

山崎悦子　広沢俊夫

田中道子　石原春美

杉田夢路　添田

幸田美代子　幸田

斎藤清子　小林

広沢俊夫　西村

石原春美　多裕美

添田　本田徹

幸田　伊藤憲治

小林　丸山隆

西村　秋山洋子

多裕美　大越寿美枝

本田徹

伊藤憲治

丸山隆

秋山洋子

大越寿美枝

歳末募金のご寄附

恵まれない方達のために少しでもお役に立てて頂きたいと心あたたまるご寄附を頂戴いたしました。

ご趣旨にそって不幸な事情でお困りの方々にあたたかい贈りものとして差上げました。

まことに有難うございました。

立正佼成会の方々から一円玉募金を歳末たすけあいにと、金四、五八七円

昭和47年交通安全年間スローガン

とっさの時に　避けられますか　その運転で

ゆっくり待って　さっさと渡る

ああドッキリ　フイなとびだし　もうしません